

60年ぶりに錦江町へ戻った山ノ口遺跡 厳選した遺跡 28点を故郷で披露

大根占の海岸沿いで出土した、弥生時代中期の土器や矢じりなど28点が、12月19日から町文化センターで展示されました。60年前に150点以上の遺跡が発掘されてから錦江町での展示は初めて。県立埋蔵文化財センターの横手係長は、「県内では出土した例がない貴重な遺跡。企画展も開催できたら」と期待を寄せました。



文化財センター職員が展示期間中に2回解説。「生活用品ではなく、砂浜で円形状に並べて儀式に使われたと思われる遺跡は珍しい」と説明する職員。

鹿児島独自の伝統行事「七草祝い」 子どもたちの健やかな成長を願う

1月7日、数えで7歳になる子どもの成長を祝う、鹿児島特有の「七草祝い」が町内各地で行われました。七草がゆを貰いながら近所を回る、薩摩藩時代から続く鹿児島の伝統行事で、明昭寺では合同の七草祝いが行われ、振り袖や羽織はかまに身を包んだ子どもたちが参加。保護者はわが子の健やかな成長を願いました。



華やかな振り袖や羽織はかまに身を包んだ子どもたち。保護者たちは大きく成長したわが子の晴れ姿に目を細め、人生の節目を写真に収めていました。

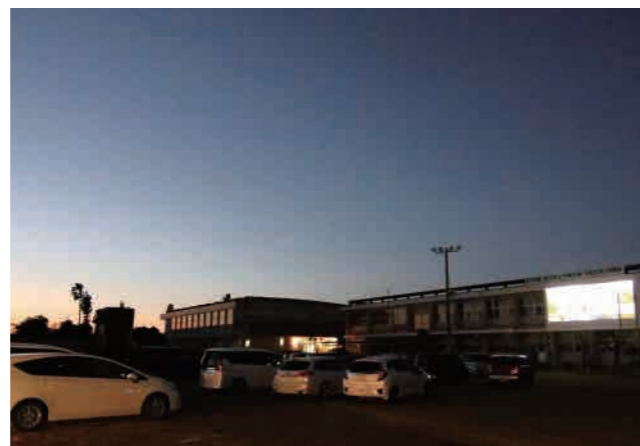
12月19日に行われたイノベーション成果発表会では課題や解決に向けたアイデアを発表。若い視点での斬新な企画や提言が出されました。
(参加できなかったB班の5名は動画で発表しました)



イノベーションチャレンジ2020 成果発表 課題に気づきアイデア実現に挑戦

昨年6月から約半年、錦江中と田代中の生徒12名が3班に分かれて、まちづくりのアイデアを考え、自ら実践してみる体験型事業に挑戦しました。取材やアンケートで見つけた地域資源や課題に対し、活用や解決の糸口を探った生徒たち。自分たちで町外企業への取材やイベント企画も行うなど大きな成長も見せてくれました。

校舎を活用した大型スクリーンで映画を楽しむ来場者。上映後は「悪疫退散花火」も打ち上げられ、新型コロナの早期収束を願いました。



ウィズコロナでの新たなイベントを企画 町青年団がドライブインシアター

12月19日と20日の2日間、コロナ禍のイベントとして錦江町青年団が企画した、車内から映画を楽しむ「くるまんシネマ」が旧神川中校庭で開催されました。接触を避けるため飲食販売は予約制にするなど徹底した感染予防対策を行っての実施。2日間で73台251名が来場し、新しいイベントの形を楽しんでいました。

安心・安全な牛肉を提供するために欠かせない子牛の登録検査について説明を受けた生徒たち。田代中3年の早瀬陽人くんは実際に「耳標」を取り付ける作業を体験。



錦江町の中学3年生45名が参加 基幹産業の「畜産」に触れる

錦江町の基幹産業である畜産業について理解を深めてもらおうと、中学3年生を対象に2年前から行っている「畜産を学ぶ会」が12月11日に開催され、45名の生徒が参加しました。この日は子牛に触れながら育成過程や安全管理、牛の見分け方を学習。町畜産振興会の貫見広幸会長は「畜産も歴史的にウイルスとの闘いを繰り返している。コロナに負けず美味しい肉を食べて夢に挑戦して」と熱いエールを送りました。

ライフプラン&薬膳料理の講座を開催 セミナーを通して1年を振り返る

12月12日に、ライフプランセミナーと薬膳講座が行われ、オンラインも含めて13名が参加しました。新型コロナの影響で暮らしが大きく変化するなか、生活を見つめ直し、見えない不安を確かな安心に変えたいと田原康隆さんと玉泉友理さんが共同で開催。参加者は現状を振り返りながら真剣に耳を傾けていました。



「新型コロナの影響で社会や生活様式は急激に大きく変わった。今回のセミナーが将来設計を見直す機会になれば」と話す田原康隆さん。

地域包括支援センターや肝属郡医師会立病院の職員らが渾身の演技で認知症をテーマに寸劇を披露。講話の際も真剣な眼差しで耳を傾けていました。



認知症初期集中支援チームが全集中演技 大根占小で認知症サポーター養成

12月8日、大根占小4年の児童26名が、総合学習を利用して認知症について学びました。子どもたちに分かりやすく伝えたいと、認知症初期集中支援チームのスタッフが寸劇を披露。肝属郡医師会立病院の桜木希さんは「出来ないことを無理に押し付けず、相手の気持ちになって声をかけて」と、寄り添う気持ちを訴えました。